



梶原町総合庁舎外観



木材をふんだんに使用した2層吹き抜けのアトリウム

ゆすはらちよう  
梶原町総合庁舎が公共建築賞を受賞！

「第14回 公共建築賞(主催…一般社団法人 公共建築協会)」の行政施設部門において、木造建築物である梶原町総合庁舎(高知県)が選ばれました。

公共建築賞は、設計や施工が優れていることのほか、地域社会への貢献や施設の管理保全といった視点からも優れた公共建築に贈られる賞です。

今回は全国から88点の応募があり、第一次審査で30点の公共建築賞・優秀賞が選定された後、第二次審査で行政施設部門、文化施設部門、生活施設部門の3部門の公共建築賞が選定されたほか、3点の特別賞が選ばれました。このうち、木造建築としては、幕張インターナショナルスクール(千葉県)、南越前町立今庄小学校(福井県)が優秀賞を受賞しています。

平成22年に施行された公共建築物等木材利用促進法に基づき、国では公共建築物における木材利用を推進しており、今後も優れた公共木造建築物が建築されることが期待されます。

●梶原町総合庁舎

梶原町総合庁舎は、昭和43年に建設された役場庁舎の老朽化に伴い、国道

440号の現道拡幅工事と合わせたまちづくりの一環として、「防災の拠点機能」・「住民の利便性」・「環境と梶原産材の利用を考慮し、道路工事による移転対象となった農協及び銀行、商工会と一緒に入居する総合庁舎として平成18年に新たに建設されたものです。

その建築にあたっては構想段階から、梶原町がこれまで進めてきた光・風・土・森林・水をはじめとする自然の恵みやその自然を大切に活かし共生する、「循環と共生の思想」を取り入れた町のシンボルとなるよう設計を行いました。

外観や構造材にはふんだんに木材を使用し、木材の総使用量の9割以上に町産材を使っています。

建築から7年を経過した今なお、内部は木のもつあたたかさが独特の雰囲気を出し、木の香りがする安らぎの場になっており、住民が集うアトリウムにはピアノも置いてあり子供たちが学校の帰りにピアノを練習したり、音楽発表会や、高校生の研究発表など、交流の場としても活用され、広く住民に親しまれ、愛される建物になっています。



木の香り漂うアトリウムは、交流の場としても活用されています

●設計・監理 慶應義塾大学 理工学部システムデザイン工学科
●設計・監理協力 隈研吾建築都市設計事務所
●構造 木造(一部RC造)
●木材使用量 構造用集成材(梶原産杉) : 358.79㎡ 母屋(乾燥材) : 32.37㎡ 外壁羽目板等 : 356.04㎡ 合計 : 747.20㎡

資料提供：梶原町